

今週の為替相場見通し(2020年8月31日)

総括表		先週の値動き			今週の予想レンジ
		注	レンジ	終値	
米ドル	(円)		105.20 ~ 106.94	105.36	104.20 ~ 106.70
ユーロ	(ドル)		1.1763 ~ 1.1920	1.1905	1.1800 ~ 1.2050
(1ユーロ=)	(円)		124.75 ~ 126.76	125.45	123.50 ~ 126.50
英ポンド	(ドル)		1.3054 ~ 1.3357	1.3350	1.3250 ~ 1.3520
(1英ポンド=)	(円)	*	138.30 ~ 141.62	140.68	139.70 ~ 142.50
豪ドル	(ドル)		0.7150 ~ 0.7367	0.7367	0.7100 ~ 0.7400
(1豪ドル=)	(円)	*	75.45 ~ 77.96	77.61	74.50 ~ 78.50

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

金融市場部 グローバルFIチーム 木村 優太

(1)今週の予想レンジ: 104.20 ~ 106.70 円

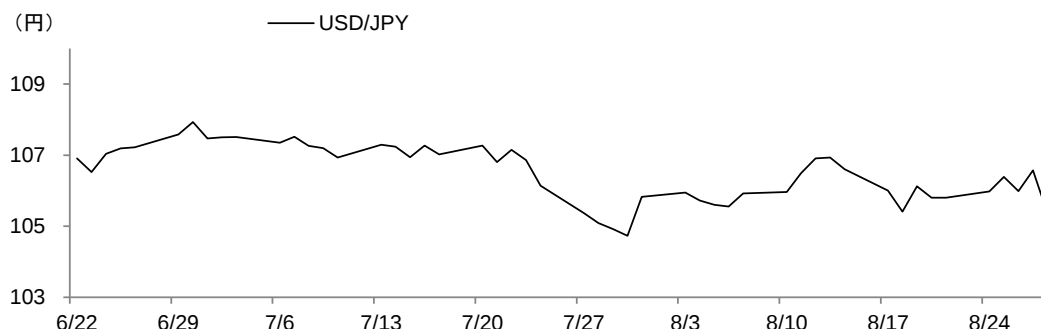
(2)ポイント【先週までの回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は好調な米経済指標やジャクソンホールでのパウエルFRB議長の講演内容を受けて堅調に推移していたが、安倍首相の辞任報道を受けて下落した。24日は105.90円近辺でオープン。7月シカゴ連銀全米活動指数が予想を上回ったことにより、米株が高値圏での推移が続いたためドル/円もじり高となり、106円ちょうど近辺まで小幅に上昇。25日は株高主導のリスクオンムードにより海外時間から上昇。安倍首相が28日に会見を開くとの報道で軟調に推移する局面もあったものの、米7月新築住宅販売件数が予想を上回ったことでその後は106円半ばを挟んだ展開となった。26日は米金利の上昇が一服したことによりドル全面安の展開となり、106円ちょうど近辺まで反落。27日はジャクソンホール会議でのパウエルFRB議長の講演にて、「インフレは期間平均で2%を目指す」と述べたことでゼロ金利政策の長期化が警戒され、一時105.60円まで下落。ただし一時的なオーバーシュートを容認することは既に織り込まれていたことから、この発言は長期的には好材料と受け止められて米金利が上昇。それに伴いドル/円も106.70円近辺まで上昇した。28日も堅調推移の流れを引き継ぎ、週高値の106.94円まで上昇。しかし安倍首相が辞任の意思を固めたとの報道を受けて円の買い戻しが一気に進行し、週安値の105.20円まで下落。その後米7月個人所得と個人支出が予想を上回ったことで105.74円まで反発するも、上値は重く105.40円近辺での越週となった。

今週のドル/円は上値の重い推移になると予想。ドル/円相場の当面の注目トピックは誰が次の自民党総裁、つまり首相の座につくかということである。次期総裁候補は菅官房長官、岸田政調会長、石破元幹事長などが有力とされている。安倍首相を支えてきた菅氏や親安倍派の岸田氏が自民党総裁となった場合は現在の主要政権を継続すると見られる一方、安倍首相と対立関係にある石破氏となった場合は大きな方針転換が行われると予想され、アベノミクスが終了し財政緊縮が実施されることも懸念される。このため菅氏や岸田氏の優勢ではドル買い、石破氏の優勢ではドル売り、総裁選に向けた動向によりマーケットが振られる展開が予想される。週末に菅氏が出馬の意向を固めたことで安心感が生まれ、今週に入ってからドル/円は小幅に反発している。とはいえ、コロナ禍の不安定な局面で長期政権が終焉したため基本的なリスクセンチメントが悪化しており、ドル/円の上値は重くなりやすいと見込まれる。

(3)先週までの相場の推移

先週(8/24~8/28)の値動き: 安値 105.20 円 高値 106.94 円 終値 105.36 円



(資料)ブルームバーグ

2. ユーロ

市場営業部 為替営業第一チーム 小野崎 順基

(1) 今週の予想レンジ: 1.1800 ~ 1.2050 123.50 ~ 126.50 円

(2) ポイント【先週までの回顧と今週の見通し】

先週のユーロ/ドル相場は上値の重い展開。週初24日、1.18近辺でオープンしたユーロ/ドルは、ドル売り優勢地合いの中、1.18台半ばまで上昇するも、先週のユーロ圏の結果や米金利上昇を背景に1.17台後半まで下落した。翌25日は独8月IFO企業景況指数の良好な結果を好感すると、ユーロ/ドルは1.18台前半まで上昇したが、ドルの買戻しが入ると1.18近辺まで反落。26日は米7月耐久財受注の良好な結果を受けてドル買いが強まると、ユーロ/ドルは1.18を再度下抜けたが、売り一巡後はドル全面安の流れにサポートされ1.18台を回復した。27日には、パウエルFRB議長の発言を受けてドル売りが強まると、ユーロ/ドルは一時1.1903まで急伸。その後は、月末を意識した利益確定のドル買いや米金利上昇を背景にユーロ/ドルは一時週安値となる1.1763まで下落するも、買い一巡後は1.18台前半まで値を戻した。28日のユーロ/ドルは海外時間に入り一時週高値となる1.1920まで買われる展開。その後も1.1900を挟んだ推移に終始した。ユーロ/円は125.21円を付けるも前日安値の125.16円を下抜けることはなかった。

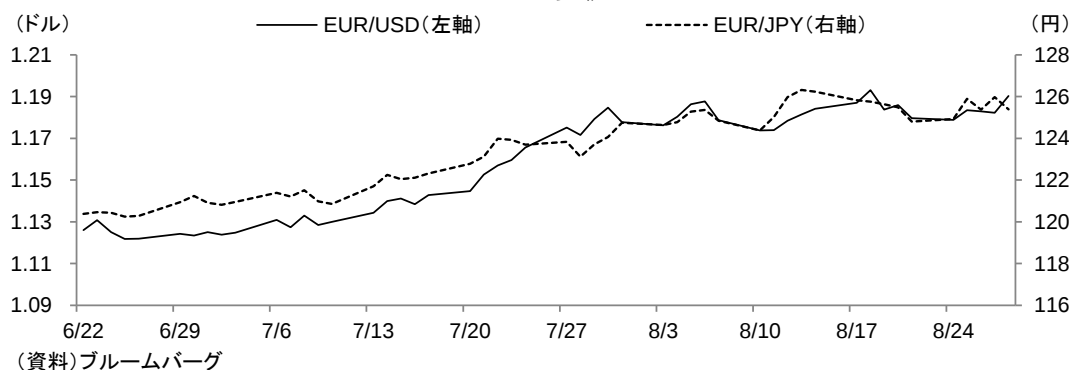
今週のユーロドルは伸び悩む展開か。EU復興基金の創設やECBのパンデミック緊急資産購入プログラムを通じたイタリア債の購入、またFRBの金融緩和長期化観測によるドル売りから1.1966まで上昇したが、IMM通貨先物の投機筋のユーロ買いポジションは過去最大まで積み上がっている。1.2000の節目を前にしていることもあり上値は限定的か。今週は1日発表のユーロ圏8月消費者物価指数や3日発表の7月小売売上高が発表されるがこれらを見極めながらの展開を予想。

(3) 先週までの相場の推移

先週(8/24~8/28)の値動き:

(対ドル) 安値 1.1763 高値 1.1920 終値 1.1905

(対円) 安値 124.75 高値 126.76 終値 125.45



3. 英ポンド

欧州資金部 森田 大貴

(1) 今週の予想レンジ: 1.3250 ~ 1.3520 139.70 ~ 142.50 円

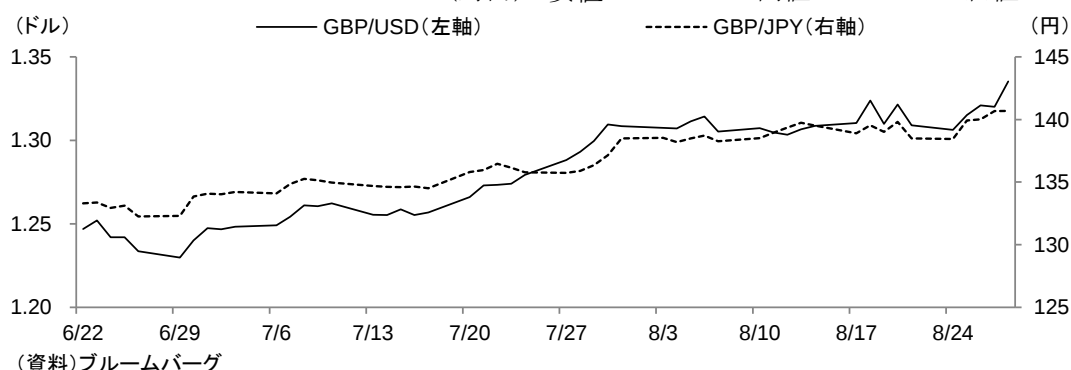
(2) ポイント【先週末までの回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は、堅調推移。特にジャクソンホールでのパウエルFRB議長講演後に上げ幅を大きく広げ、対円ではその後上げ幅を削ったものの、対ドル、対ユーロでは高値圏でクローズする展開。週初24日、対ドルで1.30台後半、対円で138円台半ばレベルでオープン。コロナ血漿療法に対する期待等を背景にリスクオン地合いとなり、LDN時間にドル売りが強まる中、対ドルで1.3147まで上昇。しかし、NYカットやLDN16時に向けフロー主導と思われるドル買いが強まり、先週の安値を割り込み1.3054の週安値まで下落し、方向感出ず。翌25日は、引き続きワクチン期待や米中協議進展期待でリスクオン地合いが優勢の中、GBPJPYが140円超えまで大きく上昇し、対ドルでも1.31半ばを超えるレベルまで反発。26日も特にNY時間にドル売りの流れが続き、またEURGBPが0.90を割り込んで調整の動きが強まったことも英ポンドをサポートする形となり、対ドルで1.32超えまで続伸。27日、注目のジャクソンホールでのパウエル議長の講演では、インフレのアベレージ・ターゲットを導入する新戦略が示される。初動は米金利低下、ドル売りで反応し、英ポンドは1.32半ばのレジスタンスを上抜け、1.3285まで上昇。しかしこの動きは短命で、米金利が上昇する動きに呼びしむしる短期のドルショートがアンワインドする動きになり、1.31半ばまで下落する荒い動き。しかし、マーケットは次第にクロス円が堅調推移する動きとなり、GBPJPYは重かった140円台前半をクリアに上抜け、翌日28日の東京時間には米株先堅調、コモディティも堅調推移する中上値を伸ばし、141円台半ばまで上昇する展開となった。この間、対ドルでもクロス円の買いにサポートされ1.32半ばレベルを回復。しかしその後、安倍首相辞任報道から円買いの動きとなり、GBPJPYは一時140円ちょうどレベルまで一気に調整。一方で、他通貨でのドル売り地合いは変わらず、対ドルでは1.33台へ上値を伸ばした。同日、ベイリーBOE総裁からは、新型コロナウイルス感染拡大から英経済を守るための一段の手段があるとの認識が示されたが、材料視されず。さらに、月末フロー（英国は31日がバンクホリデー）からLDN16時に向け対ドル、対EURでのポンド買いが強まったことも相まって、それぞれ1.3357、0.8909のポンドの高値を示現し、同水準の高値圏で越過した。

今週の英ポンド相場は、底堅い展開を予想。先週は、パウエルFRB議長講演後クロス円主導の動きから、対コモディティ通貨を中心にドル売りが強まる展開。安倍首相の辞任を受けクロス円は調整したものの、他通貨でのドル売り地合いは変わらず、各通貨ともドルの安値圏のクローズとなった。ブレグジットを巡っては、前週末のEUとの通商交渉に関する悲観的なニュースからポンドは下落したものの、週を開けてからのフォロースルーは極めて限定的。今週は、公式の交渉ラウンドは予定されていないが、交渉の難航自体は既に織り込まれており、この材料からポンドの上値が重くなる可能性は想定しづらい。また、英国でも他のヨーロッパ諸国同様新型コロナ感染拡大が懸念されるが、ワクチン期待もあってか、センチメントが冷やされる動きとはなっておらず、英ポンドは主要通貨ではオセアニア通貨に次ぐ上昇率を見せた。パウエル議長講演や安倍首相辞任報道を経ても、米株は連日の上昇が継続し、S&P500、ナスダックともに最高値を更新する動きとなっており、引き続きリスクオンの動きが優勢である状況下、足元の流れに変化はないだろう。加えて、テクニカルにも、先週の上昇で8月にレジスタンスとなっていたGBPUSDの1.32台半ばやGBPJPYの140円台前半のレジスタンスを明確に上抜けたことも英ポンドのサポート材料。今週は、英国ではPMIやベイリー総裁含むBOEメンバーの発言が予定されているが、注目は月初週の米経済指標、及びそれを受けた米株の動向となろう。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(8/24~8/28)の値動き: (対ドル) 安値 1.3054 高値 1.3357 終値 1.3350
(対円) 安値 138.30 高値 141.62 終値 140.68



4. 豪ドル

市場営業部 為替営業第二チーム 上遠野 暁洋

(1) 今週の予想レンジ: 0.7100 ~ 0.7400 74.50 ~ 78.50 円

(2) ポイント【先週までの回顧と今週の見通し】

先週の豪ドル相場は上昇。24日、トランプ米大統領が米国食品医薬品局(FDA)から新型コロナウイルスのプラズマ治療を緊急承認したことが好感され、リスク選好的な豪ドル買いが先行。豪ドルは一時0.72を上抜けたが、その後は0.716まで下落する展開。25日は中国企業による豪会社の買収案件が、FIRBの承認を得られず中止となったことから、0.71台前半まで下落する場面があるも、米金利低下を背景とした豪ドル買いも入ったことで、0.719レベルまで戻した。26日はジャクソンホール会合で予定されるパウエルFRB議長の講演を控えて全般的に慎重な動きとなるも、株式市場の堅調さを睨みながら豪ドルは買い優勢となり、0.723台まで上昇。27日は、注目されたパウエルFRB議長の講演において、FRB金融政策のインフレ率のターゲットについて、従来の2%目標から2%の平均物価目標へと変更すると発表したことで、現低金利政策が長期化するとの見方から一時的に米ドルが下落する流れに豪ドルは0.7290まで上昇した。その後は、インフレのオーバーシュートが容認されるとの見方から米長期金利が上昇し米ドル買戻しの動きが入り、豪ドルは0.7219まで下落するも下げ幅は限定的で結局0.7250まで小幅戻し。28日は前日までの上昇の流れを引き継ぎ0.73台半ばまで上昇。なお、この日安倍首相が辞任を表明したことでリスク回避の円買いが強まる中、豪ドル円は77円前半まで下落する場面があるも、一服後は再び豪ドル買い優勢となり、クローズにかけては77円半ばまで戻す展開となった。

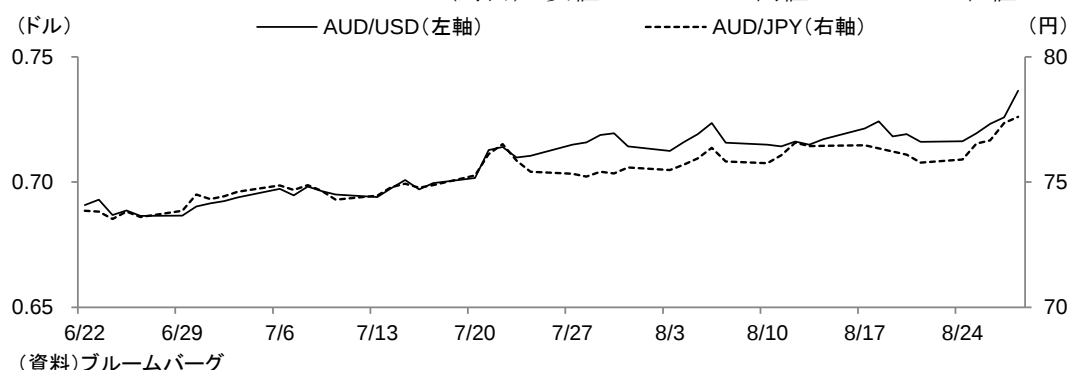
今週の豪ドル相場は強弱材料入り混じる展開の中、0.73台半ばを中心としたレンジ相場を予想する。今週9月1日(火)に予定されている豪準備銀行理事会では、マイナス金利導入等には否定的な姿勢を継続し、政策金利は0.25%での据え置きが決定される見込み。豪準備銀行の追加金融緩和への期待後退感から豪ドルはサポートされる可能性があるものの、主な経済指標として、2日(水)に発表される4-6月期豪GDP、および3日(木)豪7月貿易収支、4日(金)豪7月小売上高等の経済指標が市場予想を下回る内容となれば豪ドル売りが強まる可能性もあるだろう。もっとも、今週は4日(金)米8月雇用統計の発表も控えており、様子見感から週中は大きな値動きは期待しにくく、レンジ相場をメインシナリオとして考えたい。

(3) 先週までの相場の推移

先週(8/24~8/28)の値動き:

(対ドル) 安値 0.7150 高値 0.7367 終値 0.7367

(対円) 安値 75.45 高値 77.96 終値 77.61



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償のみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。